

本日の
プログラム

札幌モーニングRCのカミネッコン植樹計画 札幌モーニングRCカミネッコン植樹・地域共同特別委員長 宮部光幸氏

私達中小企業のSDGs 池田光司 会員

1985年に札幌市北方圏市長会議に参画して初めてポートランドに行きました。ポートランドは環境に優しいまちづくりを標榜しております。その後もポートランドや北欧に行き環境に対する取り組みを学ぶことができました。世界の二酸化炭素排出量の1番は中国で30%強、次いでアメリカ、インド、ロシアで日本は5番目となっております。日本は3%の排出量ですが、中国に比べると厳しい削減目標を求められております。G7プラス中国における“開発途上国は経済開発の権利があり、先進国は過去のCO2排出の責任を負ってCO2を削減すべき”という考え方で、先進国は火力発電から撤退し中国の独占が進んでおります。また、先進国は石油消費の削減に邁進し石油産業の打撃を受け一方、中国は産油国からの調達を増加させており、化石燃料を取り上げられた途上国は中国を頼るという構図になっております。1つ目は太陽光パネルで『結晶シリコン方式』が主流で、世界生産80%を中国が占めており、更に40%が新疆ウイグル自治区で生産されております。国際人権団体アムネスティ・インターナショナルは2021年2月にウイグル族などイスラム教徒の少数民族が多く暮らす中国北西部の新疆地区での調査を国連に要請しており、中国によるウイグル族への虐待疑惑は、国際的な批判を呼んでおります。2つ目にコンゴ鉱山で児童労働問題です。電気自動車のバッテリーはニッケル・リチウム・コバルトなどのコストが大半を占めており、バッテリーの発火リスクを下げるコバルトはコンゴが埋蔵量(2/3)で世界一であり中国が独占輸入しており、米国人権保護団体は、コンゴ鉱山での児童労働や強制労働によって生産された品目が含まれていることを指摘し、米IT大手5社に集団訴訟を提訴しております。コンゴでは多くの子供たちがわずかなお金で、毎日狩りだされて穴奥深くまで掘り、1粒1粒拾っている状況を顧みず、世界的には一気に電気自動車に移行しようとしているのです。そして、私たちの食品業界の問題ですが、家畜が排出する温室効果

ガスが問題視されております。反芻動物がいるからこそ、草は水分を補給し土壌の根粒菌に栄養を与える存在であるにも関わらず、現在は牛舎に閉じ込め飼育しているので、大地に対し問題が発生させている。わが社が取り扱っている豆の生育に関して、大切な根粒菌というものがあり、これは豆などの食物の根について菌糸を伸ばし食物が光合成で作った糖類(炭素化物)を取り込み、今度は根粒菌が植物の餌である土の中の栄養(窒素・リン酸エステル等)を吸収し水と一緒に根まで運び、土に保水性が保たれて豊かな穀物が保たれるというのが本来の土です。しかし、現在は種や化学肥料・農薬の開発が進み、生育のよい物ができているが、その反動で沿岸のデッドゾーン化しております。このような問題がSDGsの中に隠れ起きており、私達はSDGsに取り組むにあたり、目標を人と環境にやさしい“おやつ”を目指す事に切り替え、宣言をつくり、それに基づいて経営行動をしております。労働環境を整え、新しい機械の導入よりエネルギーの消費を抑え、AI技術の導入により労働時間の短縮につなげ、社員のライフワークバランスの向上につなげております。中小企業のSDGsとは、大企業と異なりできる範囲は限られております。エネルギーの消費を抑え、労働時間の短縮や負担軽減するなど、“もったいない精神”が中小企業のSDGsではないでしょうか。そして、私は不便を残す経営を心掛けております。不便を残すことで社員が知恵を出し合い語り合う事が大切であると考えております。そして私は雑用と言う言葉はない。必ず意味があると心に秘め日々“小さな(1%)改善”運動に取り組んでおります。そして決してグリーンウォッシュにならないようにと自分を戒める日々です。

